

第7次富士宮市健康増進計画・第5次富士宮市食育推進計画・第2次富士宮市歯科口腔保健計画（案）に寄せられた意見に対する市の考え方

No.	頁	項目	寄せられた意見の概要	市の考え方	反映の有無
1	62	第4章 課題と取組 分野6 食生活	<p>重点対象の位置づけについて</p> <p>生活習慣に関する主要な課題は、各種データから40～50代のいわゆる「働き盛り世代」に集中していることが明確に読み取れます。</p> <p>一方で、当該ページの施策(分野6 食生活)は年齢横断的な記載が中心となっており、どの世代を重点的に支援するのかという視点が、計画上やや見えにくいと感じます。</p>	<p>本計画は、すべての市民が健やかに暮らせる社会の実現を目指しており、乳幼児から高齢者までの各ライフステージに応じた健康課題への対応はいずれも重要であると認識しております。とりわけ働き盛り世代は、喫煙・飲酒・運動不足・食生活の乱れ・睡眠不足など、複数の生活習慣リスクが重複しやすいことから、健康寿命に大きな影響を及ぼす重要な層であると考えております。誰もが健やかに暮らせるまちの実現に向け、本計画が方針提示にとどまらず、実効性のある健康づくり施策として機能するよう取り組んでまいります。</p> <p>食生活分野における「働き盛り世代」へのアプローチにつきましては、減塩、野菜摂取および、バランスの良い食事の実践を目標に掲げております。教室やセミナーの開催に加え、スーパーマーケット等と連携し、減塩、野菜摂取向上キャンペーン等を実施します。</p>	無
2	62	第4章 課題と取組 分野6 食生活	<p>啓発と行動変容の関係について</p> <p>対象世代の生活実態に即した具体的な支援の枠組みと結びつかなければ、行動変容までつなげることは難しいと考えます。</p> <p>啓発が実際の行動変容につながるよう、施策の具体像や支援の流れを、計画上でより明確に示す必要があるのではないのでしょうか。</p>	<p>ご指摘のとおり、健康情報の普及啓発は、住民の具体的な行動や支援体制と連動して初めて実効性を持つものと考えております。従来の講演会やチラシ配布といった啓発中心の取り組みだけでは、行動変容に十分結びつかないという課題を踏まえ、より効果的なアプローチへの転換が必要であると認識しております。こうした課題を踏まえ、各分野の課題記述を精査するとともに、第6章において「本計画が目指す望ましい健康づくりの姿」を支援の流れとして図式化し、整理いたしました。</p>	有
3	77	第5章 評価指標 分野6 食生活	<p>既存施策の効果検証と改善について</p> <p>対象世代の生活実態に即した具体的な支援の枠組みと結びつかなければ、行動変容までつなげることは難しいと考えます。</p> <p>啓発が実際の行動変容につながるよう、施策の具体像や支援の流れを、計画上でより明確に示す必要があるのではないのでしょうか。</p>	<p>生活習慣病の予防は、個人の意識だけに頼るのでは継続が難しく、地域や職場など、日常生活の場と連携して取り組むことが重要だと考えております。今後の計画の推進にあたりましては、施策が単なる情報提供にとどまることのないよう、PDCAサイクルを通じて進捗状況を検証し、実態に即した改善を継続的に図ってまいります。</p>	無